



Library Liébana

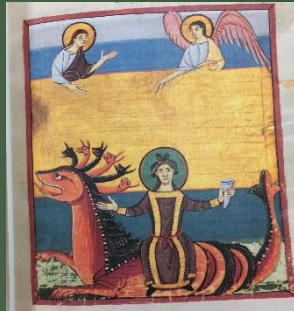
2023年7月度展示内容のお知らせ

【今月のベアトゥス写本】

今月も引き続き、ベアトゥス写本群の前後の時代の挿絵入り黙示録写本も一緒に展示し、黙示録写本の大きな流れを見てみたいと思います。

【ベアトゥス黙示録写本以前の写本】

【ベアトゥス黙示録写本以後の写本】



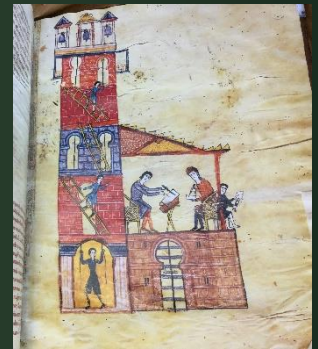
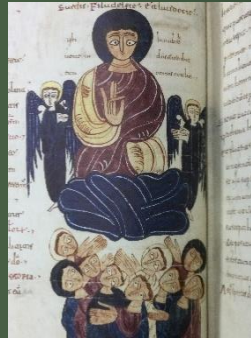
(9世紀初め
ヴァンシエンヌ黙示録写本)

(10世紀初め
バンベルグ黙示録写本)

(13世紀半ば
ゲッティ黙示録写本)

(13世紀半ば
パリ黙示録写本)

【ベアトゥス黙示録写本群から 10世紀から12世紀】



(10世紀半ば
モーガン写本)

(10世紀および12世紀
コッリャ写本)

(11世紀中頃
ファクトゥス写本)

(13世紀前半
ウェルガス写本)

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:30~17:30

7月の開館日(予定)
日・水・木・金曜日
(HPで確認下さい)

							7月
日	月	火	水	木	金	土	
25	26	27	28	29	30	1	
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31	1	2	3	4	5	

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。



H.P.



Instagram



7月7日(金)、27日(木)は
14:00開店。

ベアトウスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトウス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトウス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち19写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

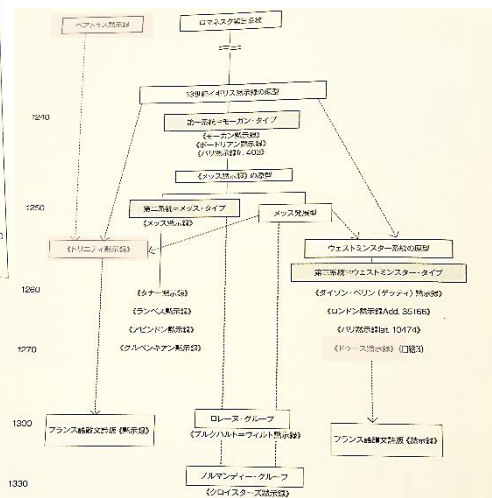
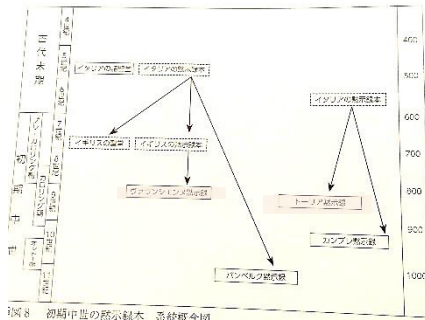
1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気をお楽しみください。

今月の展示写本

『黙示録』写本の中で、とりわけ重要な3つの系譜があります。それらは4、5世紀に誕生し、9、10世紀まで盛んに制作された初期中世黙示録写本群と、9世紀から13世紀にかけて興隆したベアトウス黙示録写本群、そして13世紀にイギリスに端を発する英仏『黙示録』群です。それぞれ際立った特徴をもつこれらの黙示録写本をひもとくならば、中世の美術の流れを一望することができます。

(田中久美子「世界でもっとも美しい装飾写本」より)

6月と7月はそれぞれの時代の代表的な写本を展示します。



【ベアトウス黙示録写本以前の黙示録写本】

(ヴァランシエンヌ黙示録写本)

9世紀初頭(第1四半期)にフランスあるいはドイツで制作されたカロリングスタイルの黙示録写本で、トリニア黙示録写本とともに残存する最初期の挿絵入り黙示録写本。

(バンベルグ黙示録写本)

11世紀初頭(1020年頃) オットー3世が制作を依頼した金色の地が特徴の豪華写本。現存する唯一の挿絵入りオットー黙示録写本です。挿絵は立体感のないフラットな書き方が特徴。

【ベアトウス黙示録写本以後の黙示録写本】

(ゲッティ黙示録写本)

13世紀から流行した英仏黙示録の一つ。41葉の上半分に彩色挿絵が描かれ、下半分に黒インクで黙示録本文が、赤インクでベレンガウドウスの註解書が書かれています。

(パリ黙示録写本)

13世紀に突如流行となった英仏黙示録の初期の写本。オリジナルは展示本の約1.5倍の大きさになる。

黙示録前後のヨハネの生涯部分は2段構成の全ページ挿絵、黙示録本文は半頁大挿絵を上部に配している。

【ベアトウス黙示録写本群から】

(モーガン写本)

モーガン写本では挿絵に枠取りをして、画面の地を幾つかの帯状色面で抽象的に処理する手法は、輝くばかりの色彩効果や破綻なく図像をまとめ上げる構図上の機能などにおいて、以降の写本の手本になったといえる写本。

(コゴーリヤ写本)

途中まで10世紀半ばに書かれ、その後200年近く中断された後12世紀第1四半期に制作が再開された写本。そのために49点の挿絵がありますが、前半はモザイク様式の画風で、後半はロマネスク様式となり、挿絵の画風が大きく変わっています。

(ファクンドウス写本)

13世紀に制作されたラス ウェルガス写本とともに、修道院ではなく王室の依頼で制作された唯一のベアトウス写本です。

金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

(ウェルガス写本)

1220年という最も遅い時期に制作された最も大型の写本。ヨハネの黙示録に関する約70点の挿絵とダニエル書の聖ヒエロニムスによる解説に伴う10点の挿絵を含む。